

平成22年12月7日

大学コンソーシアムやまがた
幹事会各委員 殿

大学コンソーシアムやまがた
幹事会委員長 小山 清 人

大学コンソーシアムやまがた臨時幹事会（持ち回り）の結果について（報告）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、11月25日付け文書によりお諮りしました審議事案「公開シンポジウムなんたっす？「大学コンソーシアム」～なして大学は連携するんだべ？～については、下記の意見がありました。1については、基調講演者等発表者の予定並びに会場予約の関係上、この日に設定せざるを得ない。2については、①今回のシンポは全国の中で「コンソーシアムやまがた」の特徴を知ってもらうことが目的、②今回は村山弁となっているが、次回以降県内の他地域で開催する際は当地の言葉を使うこととしたいとの理由から変更せず、原案どおりとさせていただきます。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記

ご意見：

- 1 「日程について学内行事との関係上変更できないか」とのご意見
- 2 「公開シンポジュームの題名案について標準語でどうか」とのご意見

－担当－

大学コンソーシアムやまがた事務局
樋口

TEL : 023-628-4842

e-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成22年11月25日

大学コンソーシアムやまがた
幹事会委員 各位

大学コンソーシアムやまがた
幹事会委員長 小山 清人

大学コンソーシアムやまがた臨時幹事会の開催
(持ち回り) について (通知)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、大学コンソーシアムやまがたでは、山形大学からの再委託を受け平成20年度から21年度にかけて財団法人新技術振興渡辺記念会調査研究事業「大学コンソーシアムやまがたを基盤とする地域教育機能の強化プロジェクト」の事業を実施してきました。今年度はその成果報告会を実施するため、山形大学が同記念会より委託を受けております。今回は、財団との契約手続上、大学コンソーシアムやまがたへの再委託は行わず、別会計（山形大学会計）での実施となります。

つきましては、別紙のとおり公開シンポジウムの開催について、ご審議くださいますようお願いいたします。

本来であれば臨時幹事会を開催してご審議いただくべきところですが、今回は本文書による持ち回り臨時幹事会とさせていただきますのでご了承願います。

本件についてご意見等がございましたら、12月3日（金）までに下記担当あてお知らせ願います。

また、ご意見等がない場合にはご了承いただいたものとして取り扱わせていただきますのでご承知おき願います。

審議事案1 公開シンポジウム
なんとっす？「大学コンソーシアム」～なして大学は連携するんだべ？～

—担当—
大学コンソーシアムやまがた事務局
樋口、西田
TEL : 023-628-4842
e-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

(素案)

公開シンポジウム

なんたっす? 「大学コンソーシアム」

～なして大学は連携するんだべ?～

開催趣旨

「大学コンソーシアムやまがた」は、山形県の高等教育の充実・発展と地域社会への貢献を目的として平成16年に設立し、現在、県内全ての高等教育機関(12機関)及び山形県で構成している。

昨年、これまでの事業・組織を点検・評価するとともに、平成22年度からの5年間で第2期と位置づけた事業計画を策定した。併せて、学長・校長等による「高等教育山形宣言」を発表して、5月に山形駅前に新たな活動拠点「ゆうキャンパス・ステーション」を設けるなど、新たな“挑戦”を開始している。

本シンポジウムでは、これらの“挑戦”について学生はもとより、全国の大学関係者及び山形県民の皆さまに紹介したい。併せて、先進的な取組を実施している京都や東北地方の大学コンソーシアム関係者とのパネルディスカッションを通して「なぜ大学は連携するのか」を明らかにするとともに今後の大学コンソーシアムの将来像や課題について考える場としたい。

- 主 催 : 大学コンソーシアムやまがた
後 援 : 公益財団法人大学コンソーシアム京都、財団法人 新技術振興渡邊記念会
日 時 : 平成23年2月7日(月) 13:30~16:30
場 所 : ホテルメトロポリタン山形
対象者 : 全国の学生及び大学関係者、一般市民 100名

スケジュール

- 13:30 受付開始
(司会: 櫻井 眞さん 東北芸術工科大学)
- 13:30 開会 大学コンソーシアムやまがた企画会議委員長 下平 裕之
(山形大学人文学部准教授)
- 13:35 主催者あいさつ 大学コンソーシアムやまがた会長 結城 章夫(山形大学長)
- 13:45 基調講演「高等教育の現状と大学間連携への期待(仮題)」
文部科学省高等教育局長 磯田 文雄 氏(予定)
- 14:25 報告「学生宣言プロジェクトの紹介」
大学コンソーシアムやまがた「宣言プロジェクト会議」委員
伊藤 早紀氏(東北芸術工科大学2年)
信夫 椋氏(東北文教大学1年)
矢作 美季氏(山形工科短期大学2年)
- 14:55 休憩

15:10 パネルディスカッション

パネリスト 大学コンソーシアム京都事務局長 西浦 明 氏
大学コンソーシアム京都加盟大学学生 ○○○○ 氏 } 依頼中
大学コンソーシアムあきた ○○○○ 氏 }
アカデミアコンソーシアムふくしま 清水 修二 氏
(福島大学理事・副学長)
大学コンソーシアムやまがた企画会議委員 横井 博
(山形大学大学連携推進室教授)
ファシリテーター 大学コンソーシアムやまがた企画会議委員長 下平裕之

16:45 閉会

17:00 情報交換会 (会場移動)

19:00 終了

以上

調査研究計画書

I. 調査研究の内容

1 調査研究の題名 大学コンソーシアムやまがたを基盤とする地域教育機能の強化
～「イノベーションの創出を目指した地域教育機能の
強化プロジェクト」の成果の普及・啓発～

2 調査研究の概要

平成20年度、21年度に貴記念会からの支援を受けて実施した、「大学コンソーシアムやまがたを基盤とする地域教育機能の強化プロジェクト」の成果を、シンポジウム、テレビ放映等により、より多くの関係者への普及・啓発する。

3 調査研究の実施者等

(1) 実施者 山形大学理事 小山清人
(協力機関；大学コンソーシアムやまがた)

実施担当者

- ・ 成果普及を目的としたシンポジウムの開催
大学連携推進室係長（大学コンソーシアムやまがた山形事務局長）
樋口浩朗
- ・ 理科好きモデル事業で開発した理科実験のTV番組作成・放映、DVD作成
理学部教授 栗山恭直

(2) 実施場所 大学コンソーシアムやまがた

(3) 実施期間 平成22年8月～平成23年3月

4 調査研究の目的等

「大学コンソーシアムやまがたの事業評価」と「第2期事業計画」について、広く社会に公表し他の多くの大学でコンソーシアムやまがたのノウハウを共有する。また、理科好きモデル事業で開発した理科実験のTV番組作成・放映、DVD作成し、多くの小中高校生の理科への関心を高める。

5 調査研究の内容及び実施方法

(1) 成果普及を目的としたシンポジウムの開催

- ① 成果普及プロジェクトチームの発足（4月～）

成果普及事業を実施するため、大学コンソーシアム内に複数大学の教職員及び学生で構成する成果普及プロジェクトチームを編成する。

② 成果普及を目的としたシンポジウムを開催

平成 20 年度から 21 年度まで実施した「イノベーションの創出を目指した地域教育機能の強化」により実施した「大学コンソーシアムやまがたの事業評価」と「第 2 期事業計画」について、広く社会に公表する。

上記を実施するに当たり協力いただいた大学コンソーシアム京都や東北地区の全大学連合団体の関係者を招聘し、大学連合団体の現状の課題や問題点について議論し、今後の果たすべき役割や機能について市民とともに考える場とする。

開催時期：平成 22 年 8 月

開催場所：山形市内ホテル

対象者： 大学関係者ほか市民（高校生含む）

内 容： ・基調講演

・大学コンソーシアムやまがたの活動紹介（事業評価、第 2 期事業計画含む）

・他大学連合団体の事例発表

・パネルディスカッション

③ 上記②のシンポジウムの結果を新聞紙上で公開する。

（開催結果の掲載内容）

「大学コンソーシアムやまがた事業評価報告書」の概要

「大学コンソーシアムやまがた第 2 期事業計画」の概要

シンポジウムの要旨（基調講演、事例発表、質疑応答）

(2) 理科好きモデル事業で開発した理科実験の TV 番組作成・放映、DVD 作成

① 理科実験 TV 番組の作成・放映

収録 10 月、放映 11 月頃

仮題「科学の芽を育てるーいきいき楽しく、山形の子は科学が大好き！ー）」

サイタセンターの実験教室、サイエンスカーによる出前実験、やまがた芋煮フェスティバルイベント、フレンドシップ事業、モバイルキッズ等科学普及事業の模様を放映する。併せて作成する DVD について周知する。

② DVD の作成

DVD「誰でもできる実験ガイドー山形大学ー」を 3,000 枚作成し、県内外小中学校、学童保育機関、市町村・公民館等に配布する。現在養成中の、科学の花咲かせ隊（社会人による科学実験指導員ボランティア）を派遣し、おもしろ科学実験の普及を図る。現在、冊子による「科学実験マニュアル」を執筆中であるが、その映像バージョンとしたい。

6 期待される成果

(1) 成果普及を目的としたシンポジウムの開催

平成 20 年度から 21 年度まで実施した「イノベーションの創出を目指した地域教育機能の強化」により実施した「大学コンソーシアムやまがたの事業評価」と「第 2 期事業計画」を公表して意見を求め、「第 2 期事業計画」に反映させて充実を図る。

(2) 理科好きモデル事業で開発した理科実験の TV 番組作成・放映、DVD 作成

開発された理科実験の内容をより多くの小中高校生に伝えることができ、理科好きの子供を増やすことができる。

7 調査研究に関するこれまでの取り組み

以下の基本構想 (1)、(2) により平成 20 年度から 21 年度まで実施した事業の成果は以下のとおりである。

(1) 大学コンソーシアムやまがたを基盤とする地域教育機能の強化

- ・事務局組織の強化
- ・国内外の高等教育連合組織の調査
- ・山形版エラスムス計画の検討

(2) 理科好きモデル事業（山形県の子どもたち、特にもの作り産業を担う子供たちに理科を好きになってもらうためにコンソーシアムのネットワークを活用して事業をおこなう）

- ・理科実験室整備
- ・立体映像システム構築
- ・サイエンスカーの購入・運用

① 国内で先進的な大学連携事業を展開している大学コンソーシアム京都や、東北地方各県の大学連合団体等を調査した上で、「自己評価報告書」を作成し大学コンソーシアム山形の位置づけを明らかにし、今後の展開方向を示した。

② 上記を踏まえ、平成 22 年度から 5 カ年間の「第 2 期大学コンソーシアムやまがた事業計画」を作成した。なお、この計画を実行するにあたり、コンソーシアム加盟の学長・校長等による共同宣言「美しい山形から「もう一つの人づくり」を目指して」を共同記者発表した。

<http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/modules/pico/index.php/content0268.htm>

1

③ 実験室設備を備えたセンターを作り、最大 60 人が一度に実験できるスペースを確保した。大学の学生実験では使用せず、外部の人がいつでも使用できる体制を作った。

④ 立体映像を投影するシステムを構築し、より科学を身近にする工夫を行った。

⑤ 2 トントラックを大学で準備し、小中への出前実験をおこなった。FMやまがた

と共同の番組を制作し、月に一度中学校を訪れ、理科実験を行い、放送し、理科の面白さ、楽しさを電波で伝える仕組みを構築した。地元の小学校の理科クラブでの実験を担当したり、理科教員向けの最先端の科学を紹介する研修を行う仕組みを教育センター等と検討した。

I I. 所要経費（本年度に要する経費）の費目及び積算 490万円

成果普及事業の推進

シンポジウム開催

講師謝金（旅費含む）	@60,000×5人=30万円
会場借料	@100,000×1回=10万円
資料印刷費	30万円
新聞掲載費（成果報告）	@2,000,000×1回=200万円

理科好きモデル事業

TV番組作成・放映	@700,000×1回=70万円
DVD作成	@1,000,000×1回=100万円
実験ボランティア派遣経費	10万円
事務補助員雇用経費	40万円

以上